

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0869

住 所 川崎市川崎区東扇島24番地

氏 名 公益財団法人日本食肉流通センター

理 事 長 小 林 裕 幸 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	公益財団法人日本食肉流通センター		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区東扇島24番地		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	K	不動産業, 物品賃貸業
	中分類	69	不動産賃貸業・管理業
主たる事業 の内容	冷蔵倉庫及び事務所の賃貸		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	4,415	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
		電話番号	
		FAX番号	
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018 年度)	(2019 年度)	(2020 年度)	(2021 年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 9,081	(実) 8,755	(実) 8,292	(実) 8,028	(実) 8,991
	(調) 8,846	(調) 8,526	(調) 8,036	(調) 7,961	(調) 8,973
削減率		(実) 3.6 %	(実) 8.7 %	(実) 11.6 %	(実) 1.0 %
		(調) 3.6 %	(調) 9.2 %	(調) 10.0 %	(調) -1.4 %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量		原単位等の単位			目標とした値
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	
		(2018 年度)	(2019 年度)	(2020 年度)	(2021 年度)
排出量原単位等の値					
活動量の値					-
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	賃貸借施設での退去が続き、空き小間が増加したため電気の使用量が減っている。	
第2年度	・コロナ禍の影響で、出店者の賃貸小間が減少した事により、エネルギー消費量が減った事	
第3年度	昨年に引き続きコロナ禍の影響で、出店者の賃貸小間が減少した事、また稼働率の低下によりエネルギー消費量が減った。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		コロナ禍の影響で稼働率の低下等にてエネルギー消費量の削減に繋がった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		今年度より新施設の稼働が始まり、省エネルギーに繋がる設備により更にエネルギー消費の削減に努める。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>○事務所等の空気調和の管理 政府の推奨する冷暖房温度の設定を徹底する。 ○照明設備の運用管理 照明更新の際に、LED照明等、省エネルギー設備を導入する。また、人感センサー等を導入を推進し、照明機器の消し忘れを防ぐ。 ○冷凍機器の更新 既存冷媒冷凍機を更新する。 ○空気調和設備の更新 事務室用空調機等、機器の更新にあたってはエネルギー効率の優れた機器を導入する。</p>
<p>第1年度</p>	<p>事務所等の温度管理について、センター使用部分及び共用部分については、設定温度を厳しめに設定し管理している。賃貸部分については引き続き省エネの啓蒙活動を行っている。照明器具は経年劣化等で不具合を起こしたものから交換している。冷凍機については室内機の洗浄を行い、冷却効率を上げた。</p>
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トラックバスのドッグシェルター及びオーバースライダーの更新を行い、荷捌エリアの断熱性能を向上させ、冷却負荷を低下させた事により電力量が低減した。 ・空調をスケジュール制御することにより、不要な電力量を削減することができた事が考えられる。 ・改修工事において、排水用ポンプ・送風排気ファンのモーター仕様をIE3を採用したことにより、高効率を実現し、消費電力を抑えられた為。
<p>第3年度</p>	<p>計画期間2019～2021年の3年間を通じてエネルギー削減に貢献できたことを再確認し次期へ繋げるとともに、2022年5月から新施設の稼働が始まるため、エネルギー消費に繋がるよう新設備の管理により更にエネルギー消費の削減に努める。</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>コロナ禍の影響で稼働率の低下等にてエネルギー消費量の削減に繋がったことが大きいですが、その他の努力もあり結果としては良い結果に繋がった。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<p>○入居テナントを対象に共同配送システムを運用する。 ○組合加入テナントの従業員を対象に、通勤用乗り合いバスを運行する。 ○テナントの事業活動から排出されるビニールごみについて、共同処理システムを運用する。 ○テナントに対し、省エネルギーについての啓蒙活動を実施する。</p>
第1年度	テナントに対し、省エネルギーについての啓蒙活動を行う。
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新棟建設計画において、中央式冷却設備ではなく、個別冷却設備を採用し、空きテナントの不要な電力量を削減する計画とする。 ・給湯加熱方式を、化石燃料を使った燃焼方式でなく、ヒートポンプ式に転換していく。 ・冷却塔のメンテナンス、清掃作業による冷却水出口水温を維持し冷凍機効率低下の未然抑止を行う。
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、新棟建設において、中央式冷却設備ではなく、個別冷却設備を採用し、空きテナントの不要な電力量を削減する計画とする。 ・給湯加熱方式を、化石燃料を使った燃焼方式でなく、ヒートポンプ式に転換していく。 ・冷却塔のメンテナンス、清掃作業による冷却水出口水温を維持し冷凍機効率低下の未然抑止を行う。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源CO ₂ 排出量	9,081 t-CO ₂	8,755 t-CO ₂	8,292 t-CO ₂	8,028 t-CO ₂
原油換算エネルギー使用量	4,723 KL	4,613 KL	4,467 KL	4,415 KL
事業所の数	1	1	1	1

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
公益財団法人日本食肉流通センター	川崎市川崎区東扇島24番地	9,081	8,755	8,292	8,028

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度